

ICTによるマップ情報で畑を診断！

概要 Abstract

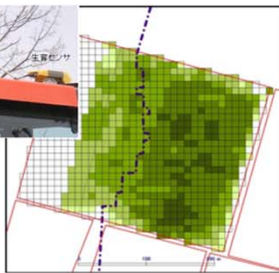
- ①生育と土壌データから畑毎に可変施肥効果の大小が判断できます。
- ②畑の中の生育と収量データを使って効果的な可変施肥が可能になります。

可変施肥とは？

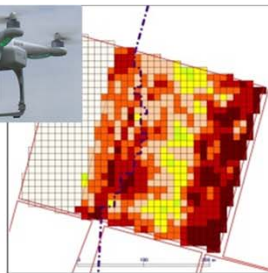
センサーで生育や土壌をみて、畑の場所毎に自動で施肥量を変える施肥技術。GPSやソフトウェア、電子制御式の施肥機が必要です。



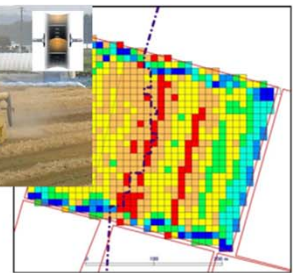
生育データ



土壌データ

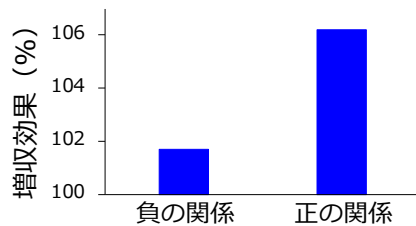


収量データ



成果 Results

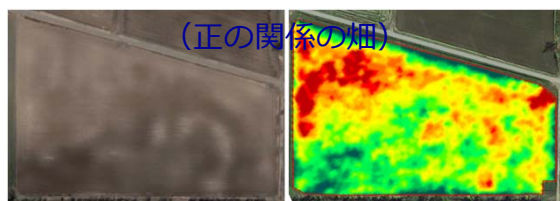
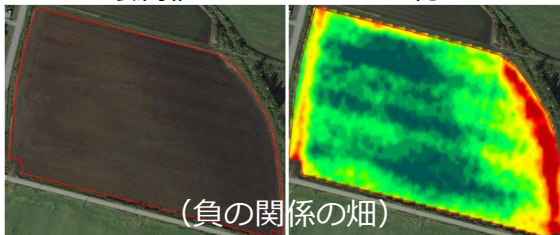
- ①可変施肥は土壌の腐植と生育が正の関係にある畑で効果的！



※秋まき小麦、てん菜、馬鈴しょ試験の平均値

土壌腐植

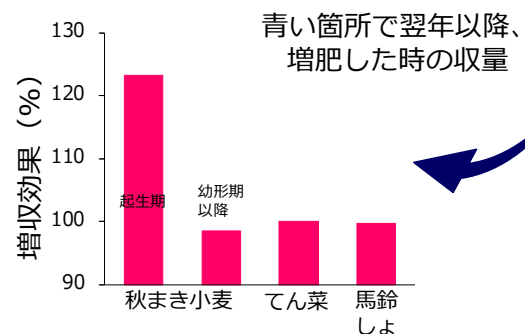
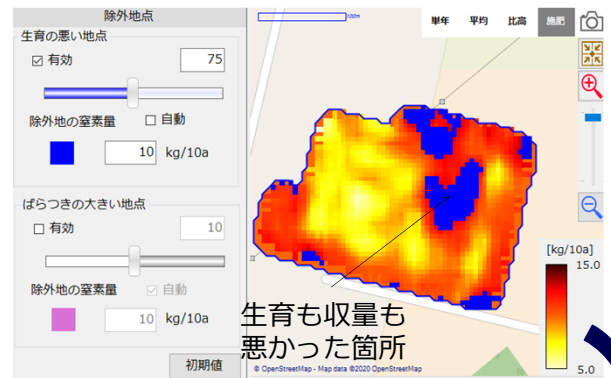
生育



普及 Dissemination

- ①先進機器の効果的導入を促進します（無駄な投資の抑制）。
- ②可変施肥の効果をも高め、無駄な施肥量削減に寄与します。

- ②可変追肥を実施した畑では、生育と収量の両方が悪い箇所をマップ化することで翌年以降的確な増肥対応が可能に！



青い箇所で翌年以降、増肥した時の収量

連絡先 Contact

十勝農業試験場
研究部 生産システムグループ
0155-62-9835
tokachi-agri@hro.or.jp